

令和三年度卒業論文・修士論文題目 (氏名 論文題目)

【卒業論文】

〔藤本ゼミ〕 日本語学

藤田 虹穂 漢字の成り立ちの説について―子ども

を対象とした資料を中心に―

桂 莉湖

中世末期と近世における助動詞の接続
の変化―『大蔵虎明本狂言』と『大蔵

虎寛本狂言』の比較を通じて―

〔灰谷ゼミ〕 日本語学

上野 奏 岡山県方言における確認・反応要求表

現についての社会言語学的研究―「ガ」

系文末詞の分派と世代差から―

金田 莉緒

内部処理状態を表す感声系感動詞につ
いての形態と機能に関する研究―談話

中の話しことばと書きことばの違い―

塩飽 祥子

立ち上げ詞における他者との関係構築
についてのコミュニケーション論的研

究―「ヨイシヨ」「ヨツコラシヨ」を

中心に―

仁科 歩

独話におけるフィラーの機能について
の研究―動画配信と日常での独話の比

較から―

増田 風音

徳島県方言における「と言った」類の
話題・主題提示表現についての研究

丸山 優月

談話コミュニケーションの成立に関す
るあいづち機能を持つ聞き手行動の社

会言語学的研究

山田 想空

アイドルファンのネット集団語におけ
る韓国借用語の使用と集団形成につい

ての研究

米田 早織

常滑市方言における確認・反応要求表
現の確信度と意味機能の関係について

の研究―「ダラ」を中心に―

渡邊 葉月

自己表現としての名前呼び自己呼称に
ついての研究

渡邊 梨央

若者語としての程度副詞語彙の文法機
能と用法の拡散についての研究

〔宮谷ゼミ〕 中古文文学

素性歌に見える表現の特徴

北村 渚

『竹取物語』における月の世界と罪に
ついて

井上 雪乃

島山 華蓮 『源氏物語』における病

深水 舞 『敦忠集』の物語性について

〔藤川ゼミ〕 中世文学

由良木 陽向 乾元二年五月四日『歌合』研究

〔吉田ゼミ〕 近世文学

高橋 佑奈 山東京伝『桜姫全伝曙草紙』考―『勸善桜姫伝』との男性描写の比較を中心に―

瀧口 花梨 十返舎一九『復仇女実語教』考―『女実語教』と『中山狼』を使用して―

〔柴ゼミ〕 近現代文学

岡本 彩夏 西加奈子『きいろいゾウ』論―〈名付ける〉という行為について―

近藤 泰成 横溝正史『八つ墓村』論―地方性の魅力に迫る―

篠原 亜友 旅するかばん―『けものフレンズ』に描かれる成長―

永岡 侑里子 星新一『にぎやかな部屋』論―時代背景との関わりを通して―

原 悠馬 高橋ヒロシ『クローズ』論―不良文化と魅せられる不良―

〔原ゼミ〕 近現代文学

岡田 昂大 江戸川乱歩「人間椅子」論―〈決定不

川島 陽

工藤 慧 ションと語りの構造―

下脇 あさな 谷崎潤一郎「痴人の愛」論―譲治の選択―

畠田 桜和 創作「ラストリゾートの蛇」

馬場 百合子 司馬遼太郎「燃えよ剣」論―土方の変化―

山岡 瑞穂 夢野久作「暗黒公使」から読み解く「二重心臓」

〔藤井ゼミ〕 民俗学

池田 光輝 ネットロア『きさらぎ駅』の受容

境 海 『今昔物語集』巻二十八における茸説話の研究

〔私〕

〔藤井ゼミ〕 伝承文学

三箇 那奈 創作昔話 蛸草子

三宅 晴天 百鬼夜行を語る意義―中世説話文学・絵巻を通して―

〔鷹橋ゼミ〕 中国文学

荒卷 舞花 中国古典詩に見られる美女表現

石川 恵子 李白の詩にみられる酒表現について

―忘憂の物としての酒―

植田 愛里

『搜神記』の蛇について

【修士論文】

田邊 わこ

劉向『列女伝』—時代背景を中心に—

芝崎 祐介

速水 彩華

中国古典詩に詠まれた蘭について

林房雄「青年」論—初期作品群との比較を通して—

〔光原ゼミ〕 創作

見谷 香乃

道化師にカーテンコールを

岩重 果奈

とある小学校の七不思議のおはなし

木村 亜香里

致命的トリオ

小宮山 詩乃

漠然を歩く日

榛葉 早紀

夏が大好きだったぼくら

竹原 佳祐

鬱金香

田村 望海

ガラス細工のふたり

辻 明音

キミが望んだ物語

中嶋 亜由美

籠の中の鳥、大空を知る

長谷川 拓己

BOTTOM

藤原 和人

地獄でまってる

三国 純基

不完全小説、あるいは追憶

〔信木ゼミ〕 国語教育学

荒木 桃果

道徳科と国語科の関連性と独自性—教材に着目して—

斜森 あやめ

公共図書館と学校図書館との連携による子供の読書活動推進についての考察

松井 咲保

国語科の授業における対話の可能性

—「読み」に着目して—